

# 環境経営レポート 2020

(対象期間:2019年度⇒2019年11月～2020年10月)

発行2021年1月5日

**SANSHIN**  
production of the precision parts



®環境省

エコアクション21

認証番号0000568

**三鎮工業株式会社**

# 目 次

【1】 会社の概要	1ページ
【2】 環境経営方針	2ページ
【3】 環境経営目標	3ページ
【4】 環境経営計画	3ページ
【5】 環境経営目標の実績	4ページ
【6】 環境経営計画の取組結果とその評価	4ページ
【7】 代表者による全体評価と見直しの結果	7ページ
【8】 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	7ページ
【9】 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8ページ
【10】 その他環境活動	8ページ



# 【1】会社の概要

## (1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ カブシキカイシャ

三鎮工業株式会社

ヤマダ ヒロシ

代表取締役社長 山田 浩司

## (2) 事業所住所

〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10

## (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役社長	山田 浩司
担当者	環境管理責任者	山田 浩司 (兼任)
連絡先	電話番号	042-513-0718
	FAX番号	042-513-0719
	E-mail	info@sanshin-i.com
	ホームページURL	https://sanshin-i.com
	facebook	https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

## (4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ  
デジカメ、モーター等に用いられる精密金属部品の挽物加工

## (5) 事業の規模

従業員数：19名

敷地面積：1,652.90㎡

建物面積：1,800.37㎡ (2019年4月に工場を207.9㎡増築)

売上額(税抜)：783百万円 ※2020年10月決算

→ 製品売上高：657百万円

→ 切粉売上高：123百万円

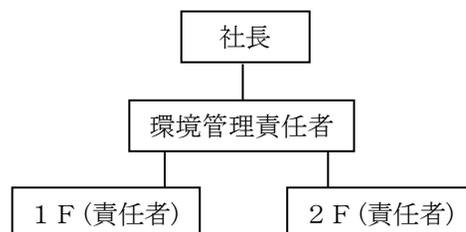
→ 材料売上高：1百万円

## (6) 認証・登録の範囲

全社

全活動 (金属機械加工)

## (7) 環境実施体制



## 【2】環境経営方針

### 環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

### 行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。
2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。
3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定 2006年1月16日

改訂 2019年1月25日

代表取締役社長

山田 浩司 

## 【3】環境経営目標

昨年度より2017年度版ガイドラインに則った新しい取りまとめ表にて算出した数値を基に環境経営目標を設定している。

	環境目標	目標値
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 <sup>※</sup>	過去2年度の月平均以下 13.68 [ kg-CO <sub>2</sub> / 売上百万円 ]
1(2)	購入電力の削減	過去2年度の月平均以下 1,172.48 [ kWh / 売上百万円 ]
2	廃棄物等排出量の削減	過去2年度の月平均以下 6.89 [ kg / 売上百万円 ]
3	水の使用量の削減	過去2年度の月平均以下 373.75 [ ℓ / 売上百万円 ]
4	化学物質使用量の削減	過去2年度の月平均以下 6.84 [ kg / 売上百万円 ]
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数	40 [ 件/年 ] (うち有効提案件数 12 [ 件/年 ])

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO<sub>2</sub>/kWh(プレミアムグリーンパワー(株))

## 【4】環境経営計画

### 1(1)、二酸化炭素排出量の削減

- エコドライブを意識する
- 安全運転を心掛ける(急ブレーキ急発進をしない)

### 1(2)、購入電力の削減

- 不要な電気等の電源オフ
- デマンド監視装置による節電
- 営業日の調整(受注と生産数量を管理し、無駄な休日出勤を減らす)
- 新たな省エネ策の検討と実施
- エアコン設定温度の順守

### 2、廃棄物等排出量の削減

- ごみの分別の徹底
- ウエス使用枚数の抑制
- 廃液の削減 ※(4)化学物質使用量の削減と同じ
- 新たなゴミ削減策の検討と実施

### 3、水の使用量の削減

- 個人目標の設定・掲示
- 個人目標の達成度確認
- 製造工程(バレル作業)での使用水のムダ防止

### 4、化学物質使用量の削減

- 使用时以外は、洗浄機の電源をおとす(蒸発抑制)
- 廃液を蒸留し再利用する
- 夏場のチラーの温度管理

### 5、製品及びサービス向上

- 改善提案の提出呼びかけ
- 改善提案賞の表彰

## 【5】環境経営目標の実績 (2019年11月～2020年10月の月平均値)

◎ 目標達成 ○ 詳細項目を最低1つは達成 × 目標未達成  
→詳細は【6】参照

	環境経営目標	目標値	実績値	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減* [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	13.68	16.69 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円] 目標値+22.0%	×
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,172.48	1,269.47 [kWh/売上百万円] 目標値+8.3%	×
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.89	8.46 [kg/売上百万円] 目標値+22.8%	×
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	373.75	375.77 [ℓ/売上百万円] 目標値+0.5%	×
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	6.84	7.28 [kg/売上百万円] 目標値+6.5%	×
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[件]	40 (うち有効提案件数 12)	27 [件] (18[件]) 目標値-13 [件] (+6 [件])	○

※購入電力の排出係数 ⇒ 0.000 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

計算根拠 ◆二酸化炭素総排出量：12,144.63 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

◆購入電力総量：939,414.00 kWh

◆廃棄物総排出量(有価物以外)：7,803.3 kg(一般廃棄物:2503.3 kg / 産業廃棄物:5,300.0 kg)

◆水の総使用量：276,500 ℓ

◆化学物質総使用量：5,750 kg

◆原単位で使用する総売上高は、製品+切粉売上のみ：762百万円

⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

## 【6】環境活動計画の取組結果とその評価

(2019年11月～2020年10月)

### 1(1)、二酸化炭素排出量の削減

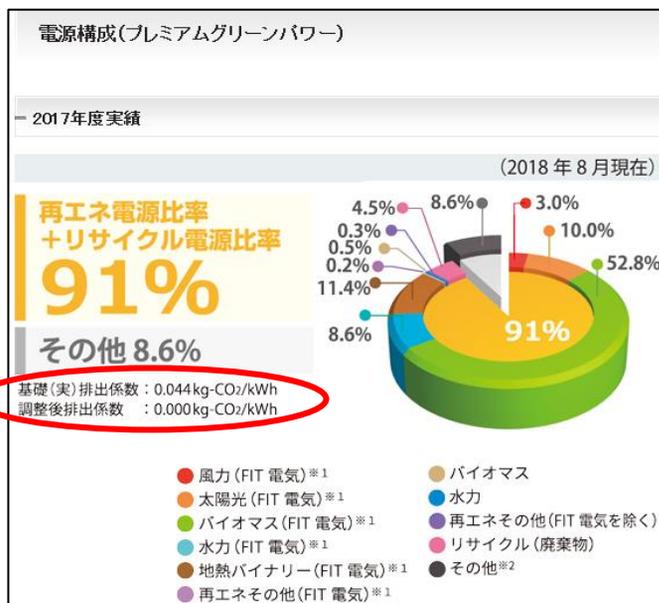
× 昨年度営業部を設置し、1名採用した上で営業車を購入したが、今年度(2019年12月)さらに1名採用し、追加で営業車を1台購入した。そのため、ガソリンによる二酸化炭素排出量が増加した。

× 製品のバレル後の乾燥過程でお湯を使用することが増え、ガスによる二酸化炭素排出量も増加。

⇒ ただし、総排出量で比較してみると微増であり、コロナの影響で落ち込んでいた受注も回復傾向にあるため、次年度は2018年度の結果(14.73kg-CO<sub>2</sub>)を目標に取り組む。

年間二酸化炭素排出量[kg-CO<sub>2</sub>]

	2017年度	2018年度	2019年度	昨年度比
ガソリン	9,403.68	11,357.14	11,640.99	+2.4%
ガス	549.59	373.84	503.63	+34.7%
総排出量	9,953.27	11,730.98	12,144.62	+3.5%



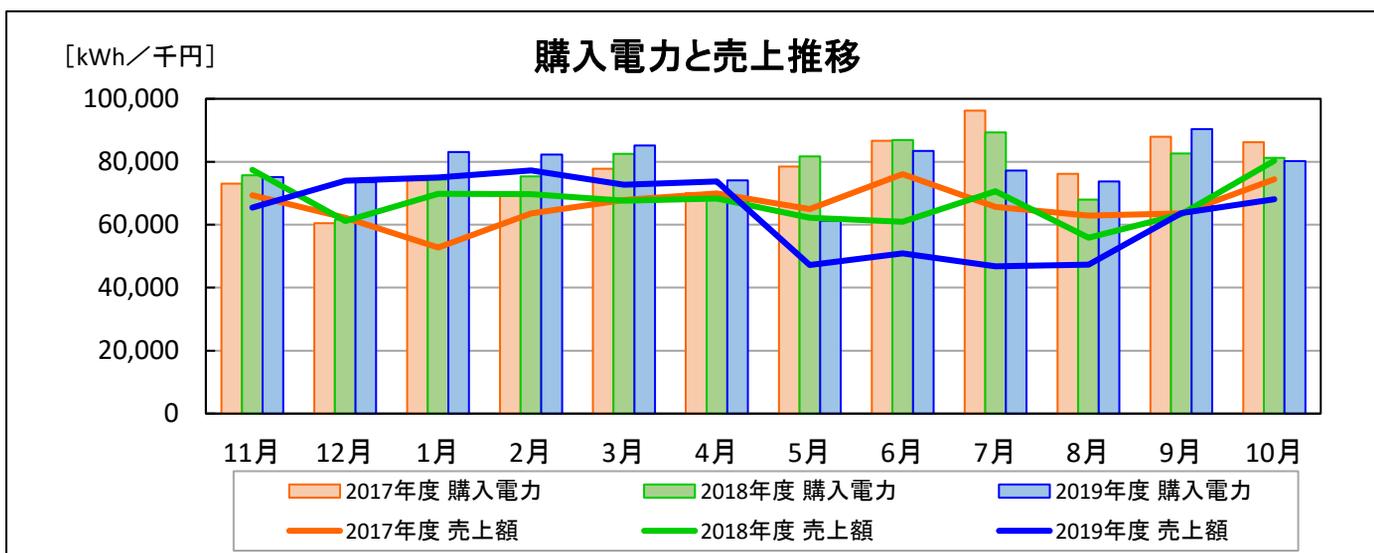
### 1(2)、購入電力の削減

2017年9月より再生エネルギーを活用した電気(右図参照)を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量が0 kg-CO<sub>2</sub>となっている。

電力料金のみを考えるのであれば、他社の方が良いのかもしれないが、環境に配慮した会社でありたいので、乗り換えずに継続利用している。

また、二酸化炭素排出量が0であったとしても、電気の浪費は良くないということを念頭に置き、購入電力の削減にも努めている。

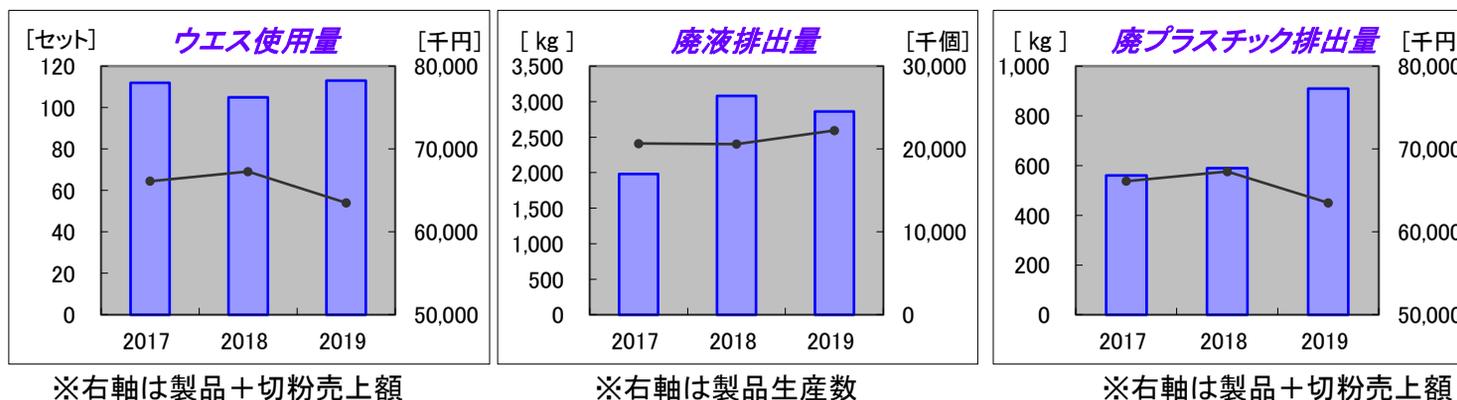
- ◎ 2019年9月に1階玄関、2階、階段の蛍光灯(40W2灯用×104台/40W1灯用×34台/20W1灯用×4台/27W×4台)をLED照明に変更した。  
設置当初、削減電気量を年間で14,013 kW/h(設置前比較58.4%削減)見込んでいた。
- × 昨年度末(9月)に1基、今年度初旬の12月に3基、計4基の機械を増設。機械による使用電力が増加しても、4月までは順調に売上高も増加しており、問題はなかった。しかし、コロナの影響で受注が減った5月以降、使用電力量より売上の落ち込みの方が大きく出てしまった。
- ◎ 普段から生産管理システムを利用し、受注量と生産数量を適切に管理出来ていたことで、コロナの影響が出てきた際、柔軟に稼働機械台数や従業員の出勤日調整が出来た。



- ◎ 上記のグラフを見ると、2019年9月に機械を増設したが、同月のLED化によって10月・11月は購入電力が横ばいに抑えられている。また、2019年12月に増設した3基分は購入電力は増えているものの、売上増加に貢献しているのが分かる。さらに5月は、全従業員が同日に計画年休を行うことで、購入電力を大幅に抑えることに成功した。
- ⇒ 結果として目標は達成できなかったが、全社一丸となって購入電力を抑える取り組みが出来たことは、非常に良かった。

## 2. 廃棄物等排出量の削減

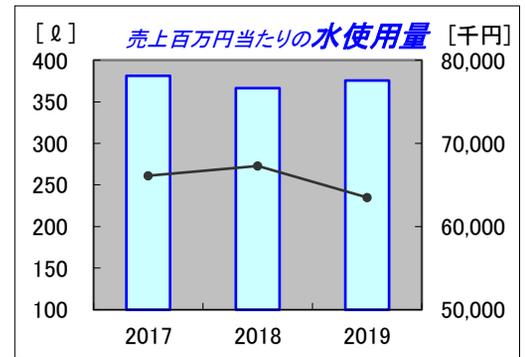
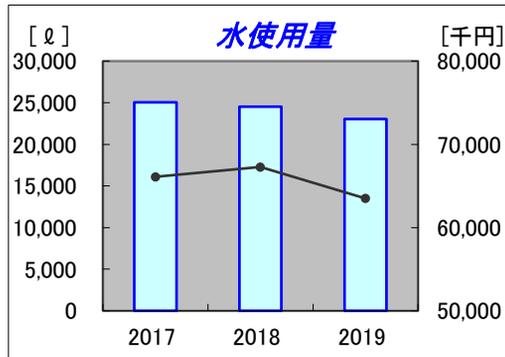
- ◎ 基本的なゴミの分別はキチンと出来ていた。
- × ウェス使用量は、コロナの影響で出勤日の調整がされたにも関わらず横ばいであった。現場のリーダーに仕組みを再度説明し、来期は改善を図る。
- ◎ 社内加工製品の売上高は-4.4%だったのに対し、生産数量は+8.0%と約165万個増加している。そのため、廃液の量も洗浄量増加に伴い増加するのではないかと予想したが、昨年度問題になった点を解決すべく、今年度より洗浄部に1名増員し対応したのが功を奏し削減に成功した。
- × 産業廃棄物の中のいわゆるゴミの排出量が590kgから910kgと、約1.5倍となってしまった。現場従業員の意識が薄れてきてしまっていると思われるので、再度指導をして改善を図る。



- ⇒ 洗浄液の廃液については、上手く取り組みが機能しているのでこのまま継続する。しかし、現場でのウェス使用料やゴミの廃棄については改善の余地ありと判断し、再度現場リーダーを中心に注意を促し改善を図る。

### 3. 水の使用量の削減

- 今年も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。
- 水を使用するバレル作業量は増えているが、実際の水の使用量は抑えられている。

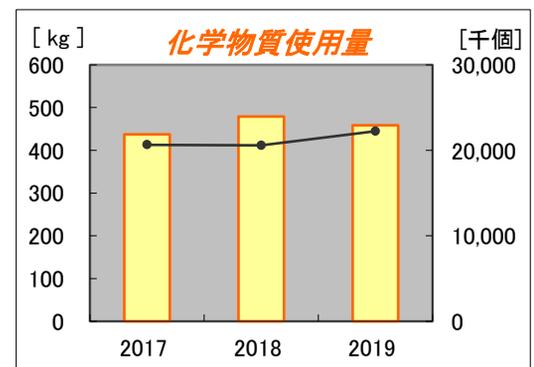


※どちらのグラフも 右軸は製品+切粉売上額

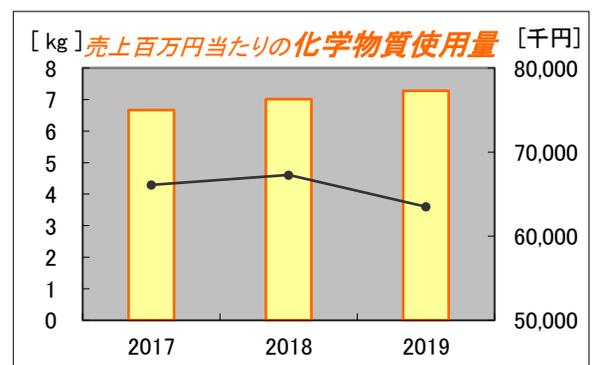
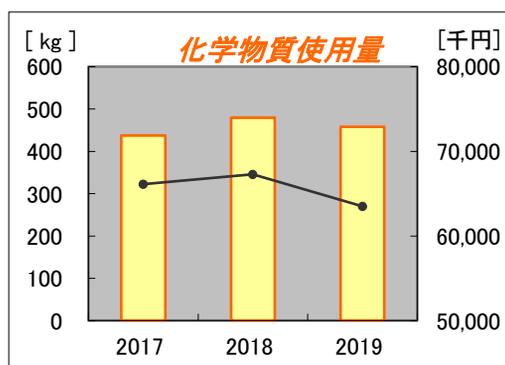
⇒ コロナの影響が出た際、従業員の出勤日数を調整したこともあり、水使用量自体は減少している。しかし、目標に設定している売上百万円当たりの水使用量でみると、今年度は売上が減少してしまっていることもあり、僅かに達成できなかった。同じ目標を掲げ、次年度は達成したい。

### 4. 化学物質使用量の削減

- ◎ 洗浄機使用時以外、電源をオフにすることは徹底されていた。
- ◎ 再利用できる廃液はそのまま処分せず、蒸留後に再利用されていた。
- ◎ 2017年6月に屋上のチラーに日よけ(すだれ)を設置して以降、3年間夏場のチラーの温度の様子を見てきたが、すだれさえキッチンと設置していれば問題ないことが確認された。次年度以降の取り組みから削除する。
- 廃棄物等排出量の削減の3つ目の項目に記載した通り、生産数量は増加したものの、化学物質の使用量は抑えられている。(右グラフ参照)



※右軸は製品生産数



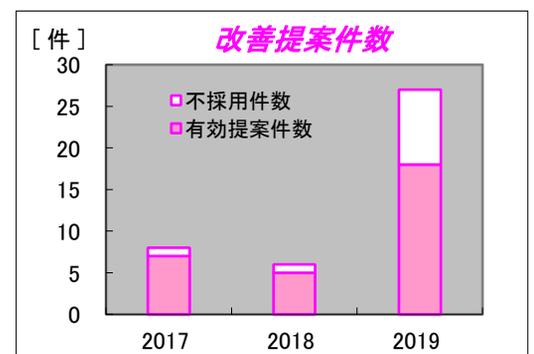
※どちらのグラフも 右軸は製品+切粉売上額

⇒ 実際の使用量は削減出来ており、取り組み自体は良かったと思う。次年度はこの状態を維持しつつ、売上の回復を図ることで目標達成を狙う。

### 5. 製品及びサービス向上

- ◎ 年に3回ある評価制度と合わせることで、なるべく全社員から提出されるような仕組みを構築した。
- ◎ 賞与に合わせた年2回の表彰についても、改善賞を受賞する人が増えたことで活気付いてきた。

⇒ ここ数年10件を超えなかった改善提案件数が、評価制度と組み合わせることで大きく改善された。しかし、目標は達成できていないので、未提出者の後追いをしっかりと行い、次年度は達成したい。



## 【7】代表者による全体評価と見直しの結果

昨年度までの7年間は右肩上がりですべて売上高が増加してきたが、今年度、ついにコロナの影響で昨年度を下回ってしまった。今年度も、上期までは過去を上回るペースできていたが、コロナの影響には勝てなかった。

しかしそんな中、できる限りの対策を打ち、全員で休めるところは計画年休を利用し、会社を休業させたくないところは政府の雇用調整助成金を活用してローテーション出勤を組み、機械も人も最低限の状態ですべて営業をすることで危機を脱することが出来た。これは、普段から生産管理システムを利用し、受注量と生産数量の適正管理が出来ているからこそ可能だったと感じている。

目標に対する結果としては、売上百万円当たりという原単位の目標にしていたものの、上期まで強気で増設してきた機械や営業車の購入電力や二酸化炭素排出量をカバーしきれなかった。さらに、現場従業員のウエスや廃棄物に関する意識が薄れてきているように感じられたので、一度気を引き締めた。

良かった点としては、化学物質使用量やその廃液に関しては、人員を増加したことで上手く回っているようなので、これを維持する。また、改善提案に関しても、導入当初のような活気が戻ってきているので、さらに盛り上げていけるよう取り組んでいく。

## 【8】次年度の環境経営目標及び取組内容

### 《環境経営目標》

	項目	2019年度実績	2020年度目標	2021年度目標	2022年度目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO <sub>2</sub> /売上百万円]	16.69	14.73	14.58	14.44
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	1,269.47	1,172.48	1,160.75	1,149.03
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	8.46	6.89	6.82	6.75
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	375.77	373.75	370.01	366.27
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	7.28	6.84	6.77	6.70
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[件]	27 (うち有効なもの 18)	40 (うち有効なもの 20)	40 (うち有効なもの 20)	40 (うち有効なもの 20)

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 0.000kg-CO<sub>2</sub>/kWh

1(1) 二酸化炭素排出量に関しては、営業車の追加等を考慮し、2018年度の結果を目標とする。

1(2)～4 に関しては、次年度同じ目標に向かって再チャレンジをする。

5 改善提案に関しては、有効提案件数の目標値をクリアしたので件数を増やし、ステップアップを目指す。

### 《取組内容》

今年度から、社員からの改善提案を中心に『小さなものでもコツコツと削減する』方向へ切り替えたが、その提案の中には「おっ！」と思わせるようなものもあり、次年度も改善提案に力を入れる。

また、毎年度取り組んでいる環境経営活動で継続すべきものは継続し、従業員の意識が薄れてしまっている部分に関しては修正していく。

さらに、個人目標の見直しと再設定することで、排出量が無駄に増えることを抑制する。



↑ 2019年3月に行った屋上の緑化ですが、2020年の夏もしっかりと茂っていました。

## 【9】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

	確認項目	遵守結果
法律違反の有無	1.廃棄物の処理および清掃に関する法律	2021年1月現在違反無し
	2.羽村市美しいまちづくり基本条例	2021年1月現在違反無し
	3.都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 (騒音規制法・振動規制法)	2021年1月現在違反無し
	4.東京都火災予防条例(消防法)	2021年1月現在違反無し
	5.化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2021年1月現在違反無し
	6.特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2021年1月現在違反無し
	7.使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	2021年1月現在違反無し
	8.使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2021年1月現在違反無し
	9.フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	2021年1月現在違反無し
	10.顧客要求事項(RoHS指令, REACH規制等)	2021年1月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2021年1月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

## 【10】その他環境活動

今年度も継続し、敷地内の草むしりを業者には依頼せず、自分たちで行いました。従業員も徐々に手馴れてきたように感じます。

